

平成29年度進行管理・評価シート
津和野町歴史的風致維持向上計画（平成25年4月11日認定）
「最終変更平成30年3月29日」

■進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 藩校養老館保存修理事業	3
2 津和野駅周辺整備事業(トイレ整備)	4
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の復旧(津和野城跡の石垣整備)	5
2 文化財の防災対策(重伝建地区の防災計画の策定)	6
3 埋蔵文化財の取り扱い	7
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	8
⑥その他(効果等)(様式1-6)	9
■法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	10

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	平成29年度 現在の状況
○事業推進のための体制整備 ○歴史的風致維持向上協議会の開催 ○津和野城山整備プロジェクトチーム(PT)の設置		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

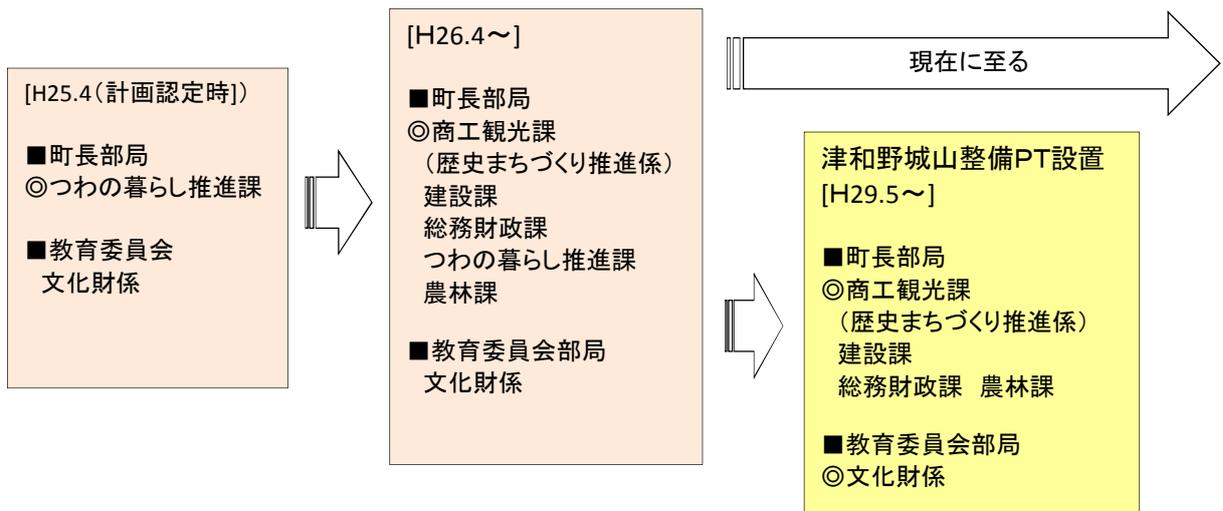
計画に記載している内容
 庁内において、歴史まちづくり推進チームを設置して各課連携して事業を推進する。
 歴史的風致維持向上協議会を立ち上げ、計画変更や事業評価等に対応する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
 ○歴史まちづくり推進チーム・・・関係各課と「都市再生整備事業」及び「集約促進景観・歴史的風致形成事業」についての事業進捗について随時協議を行うとともに、各事業の計画変更について協議を行った。
 ○協議会・・・平成29年度の事業の進捗について報告し、意見を聴取するとともに、歴まち計画の変更案について説明、理解を得た上で計画変更の申請を行った。また、平成29年度の進行管理・評価シートについて内容の協議を行い、修正を行った上で国へ提出した。
 ○津和野城山整備PT・・・重点地区内にある国指定史跡「津和野城跡」について、民間資金を活用しての総合活用事業を推進するため、関係各課によるプロジェクトチームが発足し、整備構想に基づいて調査を開始した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	歴まち事業の推進にあたっては、これまでの体制を維持しながら進めることとなるが、個別事業になると関係各課との連携が希薄になりがちになる。課題を持ち寄って内部的に十分検討する機会を持ちたい。また、新たに津和野城山整備PTが設置されたが、事業全体を統括これまでの取り組みを十分にいかし計画的に事業を進めるため、体制の充実、人材の確保・育成などが課題となる。

状況を示す写真や資料等

■歴史町づくりへの全庁的な取り組み(事業担当の推移)



■歴史的風致維持向上協議会の開催(平成29年度事業分)

<第1回協議会(2/20)>

- ・JR津和野駅周辺整備事業
- ・サイン整備・照明整備事業について
- ・計画変更について



第2回協議会の様子(5/3)

<第2回協議会(5/23)>

- ・平成29年度進捗評価事業評価について
- ・平成30年度事業について
- ・藩校養老館現地現地視察 等



現地視察の様子(5/3)

評価軸②

重点区域における良好な景観を形成する施策

	評価対象年度	平成29年度
項目	現在の状況	

都市計画と景観計画の普及・啓発

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容

都市計画については、住民等への都市計画の普及・啓発を図りながら、都市計画道路や公園緑地の整備などに取り組む。また、景観計画については、景観計画、景観条例を適正に運用するとともに景観地区や景観重要建造物、景観重要樹木等の指定を検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

(都市計画)JR津和野駅周辺整備にあわせ、駅前殿町線(町決定)と駅前天神山線(県決定)について、都市計画道路の変更を行った。

(景観計画)平成29年度 法16条1項届出(当初届出)25件、法16条5項通知(公共協議)2件

進捗状況 ※計画年次との対応

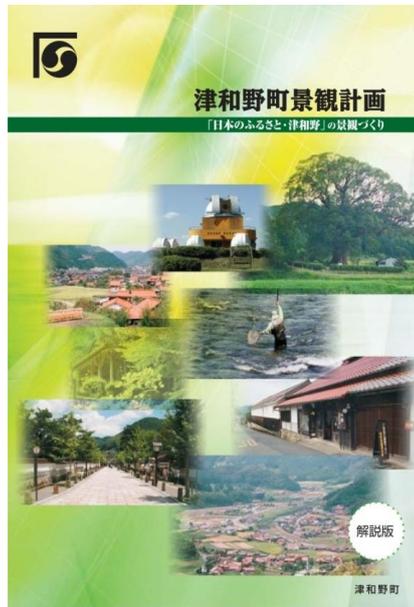
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

町民等関係者に対する周知を継続的に実施する。

状況を示す写真や資料等

■津和野町景観計画



☆住宅の建設、土地の開墾、木や竹の伐採等を行う場合には届出が必要となる場合がありますので、まずは役場へ事前相談を!!

津和野町景観計画の概要

津和野町景観計画は景観法第8条に基づき、地域の景観形成に応じて、区域や良好な景観の形成のための方針、建築物の建築等に対する基準を定めたものです。

津和野町景観計画

2つの区域

- 景観計画区域(津和野町全域)
- 景観形成地区(津和野町全域のうち、特に良好な景観についてこれを保全し、今後とも良好な景観の形成を図るため、町が独自に指定する地区)

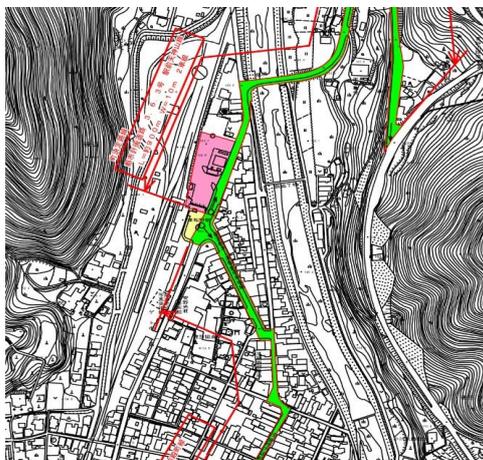
津和野町景観計画の基本理念

景観のための景観づくりから、自然体で参加し、住民のひとりひとりが考え、みんなを守り育て、次世代に伝えていく景観づくり。日常の生活の中で、生活に溶け込んだ景観づくりを願っていくことを、基本的な取り組み姿勢・理念とします。

届出手続きの流れ

■全町におけるルール
事業内容の届出が必要になります
大規模な行為(50規模の大きさな建設や開発)を行うに際して、届出が必要。また土砂や石等のアザシンの土壌汚染についての配慮が求められます。

事前の相談 → 届出 → 審査 → 届出書の提出 → 届出書の審査 → 届出書の審査結果の通知 → 届出書の審査結果の通知



都市計画道路変更にもとなう説明会 12/11開催

都市計画道路の変更にかかる法廷図書(部分)

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成29年度
項目	現在の状況	

藩校養老館保存修理事業

- 実施済
- 実施中
- 未着手

事業期間 平成27年度～30年度

支援事業名 街なみ環境整備事業、集約促進景観・歴史的風致形成推進事業

計画に記載している内容 藩校養老館について、柱等が全体的にシロアリ被害を受けるとともに、屋根瓦の割れなどにより雨漏りが発生しているため危険であり、保存修理を実施する。

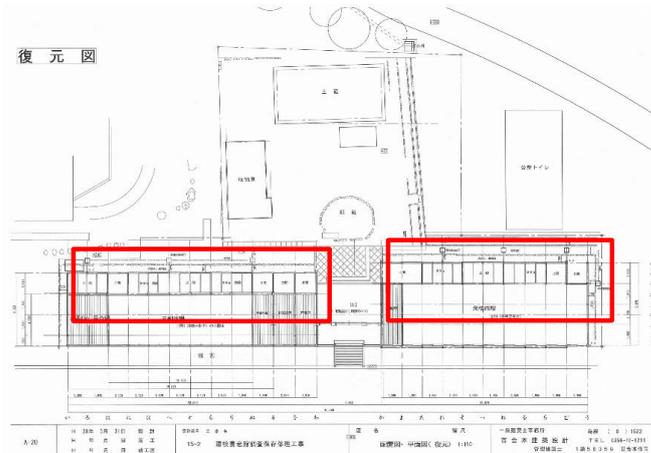
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成27年度: 実施設計業務(街なみ環境整備事業)
 平成28年度: 実施設計が完了し、建築基準法第3条による摘要の除外を受けるため、島根県の建築審査会に諮った。12月に入札を実施し、平成30年6月までを工期として工事に着手した。
 平成29年度: 解体調査の後の方針決定に時間がかかったことから工期を平成30年度末を目処に延長し、保存修理方針を定めて建物の組み立て工事を実施した。また、工事完了後の活用を図るため、「藩校養老館活用計画」の策定に着手した。
 平成30年度: 年度内の完成を目指すとともに、その後の活用を図るための体制整備を実施する。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	解体工事およびその後の建物痕跡、発掘調査等により、当初よりも工期が9ヶ月延長し、H30年度末までかかることが見込まれる。財政的な面はもちろん、観光客への影響等が懸念される。

状況を示す写真や資料等

■平成28年度保存修理事業箇所



[事業年度]
 平成27～28年度・・・実施設計業務
 平成28～30年度・・・保存修理工事
 平成30年度・・・保存修理・活用(整備)工事



[解体前写真]



[屋根工事写真: 1/18撮影]



[屋内工事写真: 3/29撮影]

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成29年度
項目	現在の状況	
津和野駅周辺整備事業(トイレ整備)	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

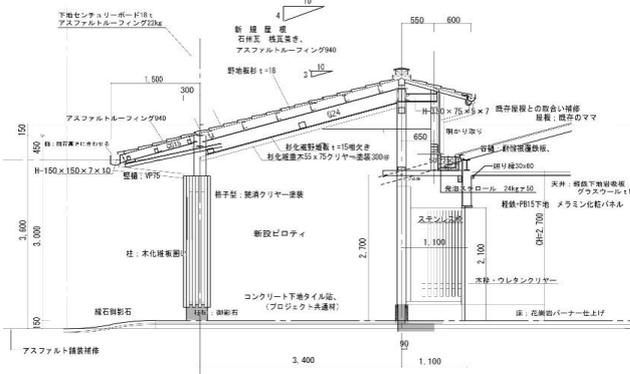
事業期間	平成28～32年度
支援事業名	社会資本整備総合交付金(都市再生整備事業)
計画に記載している内容	○駅舎とトイレの整備を行い、津和野駅前帯の環境・景観と魅力を向上させる。 ○現在、駅の南側にある駐車場については、民俗芸能などを行う広場として整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
 津和野駅周辺整備事業の一環として、駅舎北側の既存のトイレをJR津和野駅から町が取得して整備(多目的1、男子、女子)を実施した。JR利用者やJR関係者からは大変好評である。

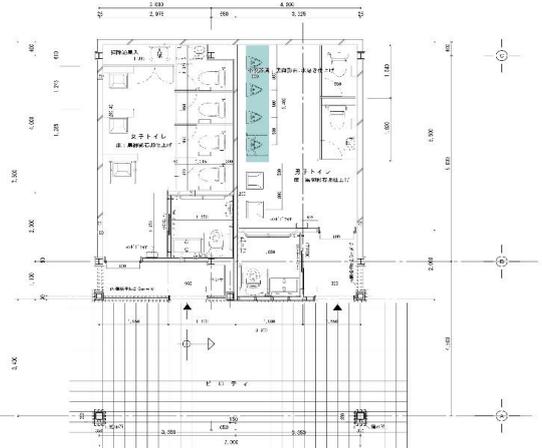
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

所在地: 津和野町後田イ66-1
 所有者: (土地)JR西日本 (建物)津和野町
 総事業費 44,274千円
 建築面積 84.30㎡ 床面積 51.39㎡
 設計・監理: 平成29年10月25日～平成29年5月31日
 工事: 平成29年2月7日～平成29年5月31日



矩形図



平面図



トイレ外観(正面:東側)5/31撮影



多目的トイレ 5/31撮影

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	平成29年度
項目	現在の状況	
文化財の復旧(津和野城跡の石垣整備)	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 指定文化財については、必要性や緊急性、優先順位を検討しながら、歴史的真正性を損なうことなく、適切な修理及び整備を実施するとともに、住民の理解を得られるよう、公開する機会の確保情報発信に努める。また、未指定・未登録文化財については、必要に応じてその保存対策を検討する。

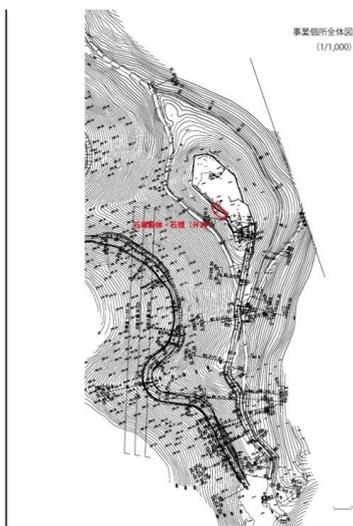
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成27年度に出丸石垣修理工事の実施設計をおこない、平成28年度より仮設作業道・仮設遊歩道などの設置工事を施工した後に、10・11面石垣の解体工事に着手した。平成29年度は引き続き10・11面石垣の石垣解体をおこない、根石部分まで解体・発掘調査を実施した後、石積工事を実施した。事業に際しては、整備検討委員会の指導を受け適切に実施した。平成29年度は天候等により住民への現場公開ができなかったため、平成30年度工事では公開に努めたい。

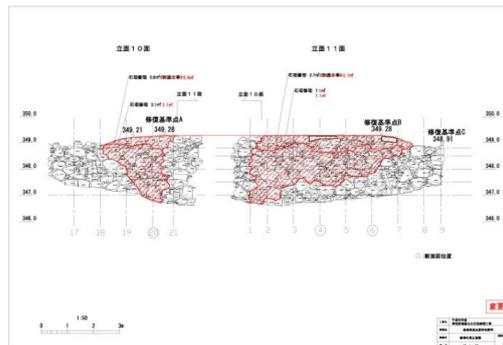
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後、石垣解体調査に伴って、新補石材取り替えや根石補強工事などの検討が必要になることが予想される。財政的な面とともに工期の延長に伴う観光客立入制限が長引くなど影響が出ることが懸念される。

状況を示す写真や資料等

■平成29年度保存修理事業箇所



工事石垣位置図



工事石垣立面図



〔石垣解体作業写真:2/23撮影〕



〔石垣石積写真:3/9撮影〕

		評価対象年度	平成29年度
項目		現在の状況	
文化財の防災対策(重伝建地区の防災計画の策定)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	指定文化財については、建造物等の防災設備の設置と点検を推進するとともに、指定文化財以外の文化財や文化財の周辺環境に対しては、各地域の防災組織と情報交換を行い、文化財所有者及び地域住民の防災意識を高め、文化財を取り巻く地域ぐるみの防災体制の構築をに努める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
近年、火災のほかに季節風による強風や地震など自然災害による被害が増えてきていることから、重伝建地区における防災計画の早期策定が求められてきた。町では、平成25年の重伝建の選定後、計画策定に向けての準備を進め、平成28年6月に計画づくりに着手、専門家や地元消防団、地元消防、地域代表からなる防災アドバイザー会議を設置して調査・検討を重ねるとともに、住民アンケートや住民ワークショップ、防災訓練などを実施して平成29年2月に素案をとりまとめた。その後地元説明会やパブリックコメントを実施して、予定通り平成30年3月末に計画を取りまとめた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		計画策定による調査結果により、重伝建地区が決して火災や地震等に強いエリアではないことが判明した。防火については防火水槽の設置や用水路の整備、建物の不燃化、地震に対しては個々の建物の耐震化につとめる必要が指摘された。また、日頃の地域住民の防災意識の高揚と、空き家の有効活用を図るため防災センターを整備することも急がれる。	

状況を示す写真や資料等



防災アドバイザー会議の開催 6/28,9/27,11/29 実施



住民対象防災訓練 11/29実施



地区内避難所、水路点等検 11/29 実施



パブリックコメントにともなう住民説明 会3/5 実施

		評価対象年度	平成29年度
項目		現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱い		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	旧城下町一体においては城下町遺跡(近世)、大陰遺跡(縄文～奈良・平安)、高田遺跡(縄文～近世)、喜時雨遺跡(旧石器、弥生～近世)などが「周知の埋蔵文化財包蔵地」として一体的に保護を図っている、こうした包蔵地内における開発については、関係機関や町内の連携体制に基づき、適切に保存を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重点区域の全域が津和野城下町遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)になっていることから、道路河川整備や住宅の新築及び建替等の開発事業が計画された際は、文化財保護法に基づき埋蔵文化財の取扱いについて調整を行っている。調整の結果、やむなく埋蔵文化財に手が入る場合においては、遺跡の記録保存等に関する調査や行政指導を行っている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		周知の埋蔵文化財包蔵地における開発においては、事前に開発計画の把握が必要である。基本的には、開発する側の申請に基づいて計画を知るため、常日頃より埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて住民または開発業者に対して広く周知を行っていく。	
状況を示す写真や資料等			



道路拡張計画に伴う確認調査(津和野城下町遺跡外堀跡)

撮影日: H28年12月12日



藩校養老館解体修復工事に伴う発掘調査

撮影日: H29年4月5日



個人邸新築工事に伴う事前の試掘確認調査

撮影日: H27年5月14日



道路改良工事に伴う現地立会

撮影日: H28年6月3日

評価軸⑤
効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	評価対象年度	掲載紙等
(1)津和野スマホでガイド	平成29年4月26日	平成29年度	中国新聞
(2)歴史織りなす和の魅力	平成29年11月6日		山陰中央新報社
(3)島根県内3件国史跡へ	平成29年11月18日		山陰中央新報社
(4)百景図に描かれた城下町	No.175号		ブルーシグナル

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
重点地区における歴史まちづくりに関する取り組みの成果として、上記を含め新聞報道で15件以上、雑誌等においても20件以上、テレビについては多数回(カウント不能)にわたり紹介された。今後事業の進展による成果をさらにPRしていくこととしている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	日本遺産事業による情報発信事業や、文化財の活用によるイベントなどの開催、各種調査による文化財指定などに取り組み、観光客が増加するとともに、これまでに取り上げられなかった雑誌などにも紹介されるようになった。しかし、課題である宿泊者の増加につながっていないことから、体験メニューの充実などにより滞在時間を延ばすための取り組みが必要である。

状況を示す写真や資料等



(1)中国新聞 4/26



(2)山陰中央新報 11/6



(3)山陰中央新報 11/18



(4)ブルーシグナル No.175号(JR西日本)

項目

歴史文化を生かした観光振興等による地域の活性化

計画に記載している内容 文化財の所有者や関係団体と連携し、文化財や歴史的風致の保存とあわせて、その価値や魅力を引き出すことを意図しながら、観光振興など地域の活性化にも生かしていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

平成30年2月に国指定史跡となった「藩主亀井家墓所」の構成文化財である永明寺の本堂で、(公財)日本芸能実演家団体協議会主催による「ニッポンたからものプロジェクト」が開催され、新たな文化財の活用手法として観光客や地域住民から多くの反響があった。また、津和野地域文化協会による第1回文化祭が津和野町観光協会と連携して開催され、文化の保存・継承、観光振興への新たな取り組みが開始された。こうした取り組みにより、重点区域を中心とした観光客は増加傾向にある。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

重点地区内にある他の文化財が、地域住民に親しみを持ってもらえるよう、地域の文化活動の拠点として、また地域学習の拠点として利用されることが必要になる。また、H24年の認定後、観光客の入込数は伸びてきているが、宿泊者数が2年連続減少しており、滞在時間の延長、宿泊施設の整備など具体的な対策が必要。

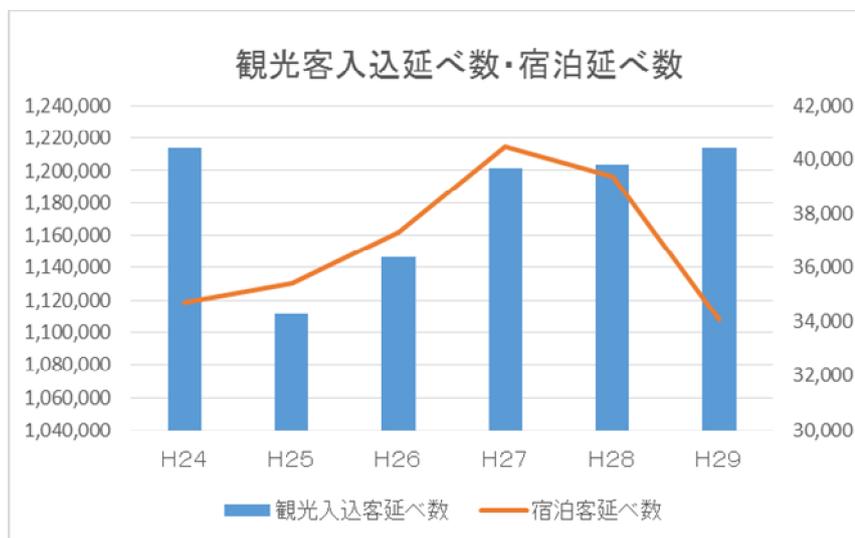
状況を示す写真や資料等



ニッポンたからものプロジェクト 公演(左)、高校生による取材(右) 11/5開催



津和野地域文化協会による文化祭 11/4~5開催



評価対象年度	平成29年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時: 歴史的風致維持向上協議会: (第1回)平成30年2月20日実施 (第2回)平成30年5月23日実施	
(コメントの概要)	
<p>(第1回)平成30年2月20日実施 協議会議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画の見直しについて 2. 平成29年度事業について <ol style="list-style-type: none"> (1)JR津和野駅周辺整備 (2)サイン整備事業 (3)照明整備事業 (4)藩校養老館整備事業 <p><意見></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画の見直しについて <ul style="list-style-type: none"> ・照明整備は早期に取り組むべきであるし、熱を持たない素材で実施してほしい ・これまでのデザインを継承して欲しい 2. 平成29年度事業について <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに親しんでもらえるような整備を ・回廊の延長をを一部短くすることでSLを展示する空間が確保できるのでは ・駅構内のバリアフリー化についてJRと協議を進めるべき ・サイン整備は観光マップと連携させて意味あるものに ・工事完了後の活用が重要となるのでしっかりとした協議を <p>(第2回)平成30年5月23日実施 協議会議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の進捗評価について 2. 平成30年度事業について <ol style="list-style-type: none"> (1)藩校養老館整備事業 (2)稲成丁河川公園整備事業 <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・統一的なサイン整備がまだできていないのではないか ・藩校養老館の整備の方針は今後の活用と整合性がとれているか ・藩校養老館整備について、その本質的価値を町民にどのように周知しているのか ・活用計画の策定において、ターゲットは誰を設定しているのか ・景観審議会においては、どのような審議が行われているのか ・伝建地区の防災計画における事業実施の今後の具体的な計画は ・現在計画されているメニューで進捗が困難なものがあるか 	
(今後の対応方針)	
<ul style="list-style-type: none"> ・サイン整備については、平成29年度事業(繰越)でおおよそすべての整備が終了することから、今後パンフレットなどに反映させていくこととしている。 ・藩校養老館の活用計画については、活用検討委員会で6月末を目処に方針を出す予定 ・伝建地区の防災計画における事業については、まちなみ保存会の意見を聞きながら、伝建審議会等で検討を行う ・計画時以降に大規模災害や他の優先すべき事業が入ったことから、財政的に計画期間内に実施が困難なものが発生する恐れがあることから早急に関係機関と協議を行う必要があると考えている。 	